

3) 学力向上支援

① 徳島中央高等学校定時制課程夜間部

○多くの人の関わりにより学習機会を増やす夜間部の学力向上支援

1 目的・ねらい

夜間部の学力向上支援のねらいは、大きく三つに分けることができる。一つは基礎学力の向上を目指すことである。高等学校の学習内容の理解に必要な学力の定着を図るとともに、一般常識や人間関係を築く力等の社会生活をしていくために必要な力を養い、自ら学ぶ態度を育てることを目標とする。

二つ目は義務教育段階の学習内容の再学習を行うことである。様々な原因により小・中学校での学習内容を身に付けることができている生徒に対し、高等学校の学習内容の理解に必要な基礎学力の学習と並行して行う。

三つ目は教員以外の大人と学習する機会を設けることでコミュニケーションや交流を通して、信頼が生まれ、悩み相談や進路相談につなげていく。また自分の将来像を考える契機にもなり、学習意欲や勉強に向かう意識向上を図ることに結びつける。

2 内容

義務教育段階の国・数を中心にして学び直しを行う学校設定教科「マルチ基礎」、社会人・職業人としての基礎を学ぶ学校設定教科「職業」および放課後や長期休暇中の課外時間における自主学習時間「ハッピータイム」において、一人一人の生徒の実態に応じた支援を継続して行っている。特に「マルチ基礎」および「総合的な学習の時間」の授業では夜間部の教員に加えて鳴門教育大学大学院生（臨床心理士養成コース）や支援相談員が、一人一人の生徒に寄り添う形での学習支援を行っている。

3 取組

学校設定教科「マルチ基礎」は、週1時間（1単位）の科目として1～3年次の生徒を対象にホームルーム主体の授業となっている。各ホームルーム生徒2、3名に対して1名の指導者が教室において学習指導を行っている。各ホームルームとも多様な生徒がいるため、マンツーマンで学習指導をしなければならない場合もあれば、1名の指導者が2～3名の指導を行う場合もある。学習指導で注意していることは、できないことの再確認にならないよう、自分で「できること」の実感と「教えてもらってできるようになること」の達成感を各生徒に経験してもらうことを目指している。さらに、小・中学校での学習時に理解できなかったことに対しては、異なるアプローチにより理解を目指すよう工夫している。

学校設定教科「職業」は、1年次に「職業基礎A」（1単位）、2年次に「職業基礎B」（1単位）を学習している。2年間の学習により社会人・職業人としての基礎を身に付けられるよう指導している。上の「マルチ基礎」と同様に各ホームルームとも2名以上の指導者が関わるようにしている。「職業基礎A」および「職業基礎B」の学習生

徒全員が「夜間部カフェ」の日替わり当番を行っており、そこでは多くの教員や生徒とコミュニケーションを図ることで社会生活を営む力を培っている。

自主学習時間「ハッピータイム」は全員の生徒に呼びかけ、自らの目標に向かい、自ら学ぶ態度を育むことを目指している。「ハッピータイム」での学ぶ内容や方法は多様であり、生徒の実態に合わせて適切に教員が対応するようにしている。

4 成果

「マルチ基礎」や「職業」の授業での学習支援を行うのは、担任・副担任だけでなく、比較的年齢に近い大学院生がいるため明るい雰囲気の中で授業を進めることができる。マンツーマンに近い形で指導できるので、わからないものをわからないと言え、生徒は学び直しをスムーズにかつ効果的に行うことができている。また、教員、支援相談員および大学院生とのコミュニケーションにより、基礎学力の向上だけでなく、社会人として必要な力を養うきっかけとなっている。

さらに、国語・数学の授業との連携により、生徒の学習意欲の向上および基礎学力の向上が実感できる。

5 今後の課題

夜間部の学力向上支援の課題の一つは、夜間部における学力とは何かをさらに分かりやすく明確にし、すべての指導者で共有することである。また、生徒の学力向上を目的として設定している学校設定教科とその他の教科とのさらなる連携により、夜間部の生徒にぜひ身に付けてほしい学習内容を確実に定着させることができるようにしたいと考えている。

② 徳島中央高等学校通信制課程

○多様な学習形態の提供による学習支援

1 目的・ねらい

徳島中央高等学校通信制課程には、中学校卒業後すぐ入学してくる者、中学校卒業から数年経過して入学してくる者、他の高等学校から転編入学してくる者と本校入学までに様々な経歴を持つ生徒が在籍している。また、高校卒業の資格を取得するため、生涯学習を志すため、他の定時制課程に在籍する生徒が3年間で高校を卒業するため、不足単位を定通併修により本課程で取得するためと、在籍生徒の新・転編入学目的は多種多様である。さらに、過去、いじめ、不登校、問題行動を経験した者、発達障害などにより特別な支援を必要とする者、そして、全日制課程や定時制課程の高校では学ぶことが困難であるという理由で新・転編入学してくる生徒が多数を占めているため、多様な生徒が学べる教育環境の整備が必要となっている。特に、近年、発達障害のある生徒や不登校を経験した生徒等、何らかの支援が必要な生徒が数多く在籍するようになってきて

いる。中には、小学校高学年から中学校までほとんど学校に登校できていない生徒も見られる。

そのため、最近の5年間では毎年80～100名が入学するものの、卒業生は毎年36～44名に留まっている。また、今年度は、在籍生徒の約42%が5年以上本課程に在籍している。仕事との両立で学習時間が確保できない、不登校傾向があり学校に足が向かない等、理由は様々であるが、これらの生徒は卒業に向け、自分のペースで学業に励んでいる。

このような中で、一人でも多くの生徒が卒業できるよう、つぎのような取組を行っている。

2 内容

本校通信制課程では、多様な生徒が学びやすい教育環境を構築するため、つぎのような学習形態を提供し、実践を行っている。

- ① 義務教育内容を学び直す学校設定科目（ベーシック国語・数学・英語）の開設
- ② 学生ボランティア（徳島大学生）による個別指導
- ③ NHK高校講座の活用促進（レポートに放送内容の取り入れ、面接指導の代替）
- ④ 学習支援制度による個別指導
- ⑤ 県南部、県西部、県北部の3地区での出張スクーリング
- ⑥ 昨年度から2学期制を導入し、前期または後期で履修を完了する科目の設置

3 取組

① ベーシック科目について

平成26年度より英数国の3教科において、中学校時代の学び直しのための学校設定科目を開設した。義務教育段階の内容が学習でき、年12回の面接指導と年6回のレポート提出により履修修得条件を満たせば2単位が修得できる。

② 学生ボランティアによる個別指導について

特別な支援を必要とする生徒への学習支援として、希望する生徒に対して、学生ボランティアによる学習支援を行った。

③ NHK高校講座の活用促進について

レポート課題の一部にNHK高校講座の放送内容と関連したものを取り入れたり、面接指導時において、NHK高校講座の紹介をしたりすることにより放送視聴の促進を図った。

④ 学習支援制度について

生徒への案内物、クラスや科目担任による広報を、年度当初より積極的に行い、活用を促した。毎週月曜日に学習支援日を設定し、原則として、事前申込（予約）を必要とされていたが、生徒の利便性を考慮し、教員側で都合さえつければ、月曜日以外でも、事前申込（予約）なしでも利用できるようにした。

⑤ 出張スクーリングについて

県南部、県西部、県北部の遠隔地に居住する生徒で、近隣地での面接指導を希望する場合、希望する科目について、それぞれの会場へ出張し、特別に支援を行った。

⑥ 2学期制半期単位認定について

1年間通して学習活動が困難な生徒のために、半期（前期または後期）で単位を認定する科目を設置した。

4 成果

① ベーシック科目について

ベーシック科目は、義務教育での学習内容を確認かつ復習することと高等学校で本格的に学習するための準備と練習を行うことを目的として開設した科目である。履修生徒は、基礎基本を確認するとともに自らの実態を知ることができ、学習を進めていくことができた。分かる喜びは生徒自身の学習意欲向上と自己肯定感につながり、開設効果は非常に大きかったと思われる。

② 学生ボランティアによる個別指導について

大学生によるピアカウンセリング的なコミュニケーションと細やかな学習指導を行った。少しずつではあるが、生徒自身の対人関係を始めとするソーシャルスキルの向上と苦手科目克服ができた。

③ NHK高校講座の活用促進について

レポート添付のアンケート及び視聴報告提出生徒数から算出した視聴人数はのべ31名327科目であった。今年度は、スクーリングへの出席率が昨年度に比べて、10%上昇しており、その分、NHK高校講座利用生徒数は減少したが、この制度は生徒に浸透かつ定着してきたものと思われる。

④ 学習支援制度について

学習支援制度を活用した生徒は延べ275名であった。昨年度は、前年度より約90名の大幅な増加となり、今年度は、昨年度よりさらに20名増加した。この制度は、レポート作成や生徒自身の学力向上に有効であるという認識が、活用した生徒に浸透してきた結果であり、生徒の学習意欲喚起に効果を上げる取組であったと思われる。

⑤ 出張スクーリングについて

本課程は県下唯一の公立通信制課程の高等学校であり、規定された面接指導を受けるために片道50Km以上の距離を通学する生徒もいる。県南部、県西部、県北部の3ヶ所で前後期各2回ずつ計6回の面接指導を行い、遠隔地から通学してくる生徒たちに対して、通学の負担を軽くすることができた。また、出張スクーリングは、個別指導に重点をおいた面接指導を行っており、より効果的な個別指導もできた。本校以外の場所にこのような面接指導の場を設けることは、不登校傾向の生徒にとって、スクーリング出席のきっかけにもなり、正規のスクーリング出席（登校）につながるといった相乗効果もあった。

⑥ 2学期制半期単位認定について

半期での学習活動を成果として認めることにより、卒業に対するモチベーションが維持でき、意欲的に学習に取り組む姿勢が身についたと思われる。また、昨年度から前期末での卒業制度を導入し、今年度は、前期末卒業該当者はいなかったが、昨年度は、2名が前期末（9月末）で卒業した。さらに、今年度は後期転編入学制

度を導入し、3名が後期転入学を果たした。うち、1名は今年度末で卒業する見込みである。

5 今後の課題

① ベーシック科目について

この科目は、主として新入学生徒を対象に設定された選択科目であり、現在は本人の希望により履修させている。入学にあたり、各教科の学力審査を実施していない本課程では、生徒の学力面の実態が把握しきれず、本来、履修が望ましいと思われる生徒が履修せずにいることがあり、このような生徒の履修率向上と単位修得率向上が今後の課題である。

② 学生ボランティアによる個別指導について

この制度は、引っ込み思案で質問ができない生徒や不登校などにより勉強の仕方がわからず、学習習慣が身につけていない生徒にとっては、有効な支援方法であると思われる。また、コミュニケーション面で自信がない生徒にとっては、学習支援以外の面で、ソーシャルスキルを向上させるきっかけにもつながる。ぜひ、来年度以降も継続していきたいと考えるが、後期からの実施となるため、科目によっては利用できないことがあり、前期にも同様の支援ができるような方策を検討することが今後の課題である。

③ NHK高校講座の活用促進について

レポート課題の中にNHK高校講座の放送内容と関連したものを取り入れることが困難であったり、講座放送日時と課題作成時期がズレたりする科目がある。しかし、Eテレビ等で興味深い番組も数多く放送されており、レポートや面接指導をきっかけに、こうした放送を観たという生徒も少なからず存在し、多様な学習機会の提供には有効な取組であると思われる。ぜひ、来年度以降も継続していきたいと考えるが、講座内容の一部でも面接指導の中で紹介するなど、活用促進の方法を検討していきたい。

④ 学習支援制度について

活用した生徒は確実にレポート作成に成果が現れ、学習意欲向上にもつながっている。一方、まだ活用したことがない生徒も数多く存在し、このような生徒に対して、活用を働きかけ、利用者数を増やすことが、今後の課題であると思われる。あらゆる機会を通して、活用を促す働きかけをしていきたい。

⑤ 出張スクーリングについて

県下各地の遠隔地より通学する生徒は減少傾向にあり、このような事情で本制度を活用する生徒は減ってきた。しかし、不登校生徒が活用する事例は今後ますます増加することが予想される。実施場所や実施方法等を工夫し、利用生徒にとって、学習効果があがるような方策を検討していきたい。

⑥ 2学期制半期単位認定について

昨年度新たに、半期で無理なく目標が達成できるよう、半期単位認定科目を設定し、2年かけて、前期末卒業制度や後期転編入学制度を整備したが、今後、生徒の履修状況を検証し、この制度をさらに改善していきたい。

③ 徳島科学技術高等学校定時制課程

○学力向上教室における参考図書の活用について

1 目的・ねらい

社会人として必要な基礎学力定着に向けて、始業前や放課後に生徒の要望に応じて補習を行う。補習実施に必要な参考図書を購入し、これを用いて指導することで学習効果を高める。

2 内容

基礎学力向上の補習用として、2冊の図書を購入した。補習希望生徒の要望に応じて、1年次3名が英語の中学校段階の学習、2年次1名が工業専門学校への進学受験資格を得るため工業英語検定4級取得の学習を行った。

3 取組

学力向上担当教員や有志の教員の協力を得て実施した。1年次は、始業前または放課後に週1回40分程度、2年次は、週4回程度それぞれ指導を行った。

4 成果

最も学力向上効果の高い個別指導で行った。受講生徒は、日々着実に学力が向上している実感が持てたことで、継続した学習ができた。また、生徒と教員の信頼関係の構築にも寄与できた。

5 今後の課題

全日制高校への再受験を希望している生徒、数学・理科の学力向上補習を希望している生徒、外国籍で日本語勉強を希望している生徒、進学の入試対策補習を希望している生徒など、多様な学習ニーズに対応して補習を実践する教員の協力体制づくりが、課題といえる。

また、学力向上補習への参加を生徒に呼び掛けても、参加希望する生徒は一部である。基礎学力が不足している生徒に対して、学習意欲を起こさせるような粘り強い声かけ指導も課題である。

④ 富岡東高等学校定時制課程

○購入図書について

1 目的・ねらい

本校定時制には、特別な支援を必要とする生徒、自己有用感や自己肯定感を持ってない

生徒等が少なからず在籍する。その対策として、様々な資格や検定を取得させることで自信を持たせ、さらには、それぞれの進学や就職に生かすことができる。これら対策のため、以下の図書購入を計画した。

2 内容

次の7冊の図書を購入した。

- 1) ひとりで学べる調理師試験 2018年版 (ナツメ社)
- 2) 2018年版 基礎から最新問題までよくわかる乙4類危険物取扱者受験教科書 (向学院)
- 3) 2017-2018年対応 短期完成 英検準2級3回過去問集 (旺文社)
- 4) 2017-2018年対応 短期完成 英検 3級3回過去問集 (旺文社)
- 5) 2017-2018年対応 短期完成 英検 4級3回過去問集 (旺文社)
- 6) 2017-2018年対応 短期完成 英検 5級3回過去問集 (旺文社)
- 7) 英検準2級 二次試験・面接 完全予想問題 (旺文社)

3 取組

購入した図書に関する資格や検定の受験を、関連する教科・科目の授業や、進路関係ホームルーム活動や、個人面談などを通して促した。

4 成果

「乙4類危険物取扱者」を4年生の生徒一人が受験している。夏の1回目の試験は不合格になった。2月に今年度の2回目があり、受験予定である。

5 今後の課題

資格や検定に取り組むことで学力が向上するとともに、進学や就職に有効であるという直接的な実利に関することを生徒に伝え受験刺激をするとともに、受験者数が少ないのは、学力に対する不安や自己肯定感が低いことなどが原因として考えられることから、それらを向上させる支援も受験刺激と同時に必要である。

⑤ 名西高等学校定時制課程

○資格取得に向けた図書の購入について

1 目的・ねらい

本校の生徒は、小中学校時代において何らかの理由で不登校を経験したものが少なからずいる。そのため、真面目であるが基礎学力が不足していることが多く、自己肯定感も低い。資格取得を目指すことで学習意欲を向上させ、学力向上につなげていく。

2 内容

高校生が取得できる資格としては、日本漢字能力検定、実用英語技能検定、危険物取扱者などがあるが、一番身近で取り組みやすい日本漢字能力検定の資格を取得させることとした。検定は級別にわかれているので、そのための学習教材図書を購入し授業等で活用する。

3 取組

受検希望者は、1年に3回（7月・11月・1月）、本校で全日制の生徒とともに希望する級を受検する。その対策として授業や放課後、休日等に購入した図書を活用して問題演習をおこなう。

4 成果

今年度、第1回と第2回の合格者数は3級0名（受検者3名）、準2級1名（2名）、2級1名（1名）であった。第3回では3級に2名が受検し、結果待ちである。

5 今後の課題

希望者のみの受検のため、のべ8名にとどまった。今後は受検者数の増加に向けて、生徒への呼びかけ、国語などの授業での取扱い、受検料の補助などを検討していく。

漢字検定はさまざまな級があるが、就職や進学の際に提出する調査書に記載できる級となると、生徒の実態に合わないことがあり、受検を躊躇する一因ともなっている。

⑥ 池田高等学校定時制課程

○授業改善・学力向上講座等について

1 目的・ねらい

I C T機器の活用や授業改善に関する研修等によって教員の授業力向上を図るとともに、少人数の強みを生かした授業を実践することで、生徒の基礎学力の定着や学習に対する意欲や態度の向上に繋げる。

2 内容

I C T機器やシンキングツールを活用した授業に関する校内教職員研修や授業参観週間を設けて授業改善に繋げた。漢字能力向上講座、計算能力向上講座では生徒の状況に応じてレベルを段階的に設定して実施した。毎日15分の読書の時間を設けた。

3 取り組み

授業力向上（I C T機器活用講座、シンキングツール活用講座、相互参観、研究授業）
学力向上講座（漢字能力、計算能力）、読書の時間

4 成果

本校では全教室に電子黒板が設置されているが、年度の早い時期にICT活用講座を実施したことで新しく赴任した教員も積極的にICTを活用できている。(本年度電子黒板活用率：63%) また、他の教員の授業の見学やシンキングツールに関する研修により授業の組み立ての幅が広がった。ICT活用授業には生徒の多くが好意的で、授業に取り組む姿勢も向上した。

学力向上講座では、漢字・計算テストを年4回実施した。読書に関するアンケート結果では今年度読んだ本の冊数(10冊以上：16%、5-9冊：37%、2-4冊：37%、1冊以下：11%)で昨年度より向上した。

※学校評価アンケート結果

質 問	肯定的評価%→	H30	H29	H28	H27
【生徒】授業はよくわかりますか。		74	74	83	63
【生徒】授業を真剣に受けていますか。		89	79	56	67
【生徒】授業に満足していますか。		84	74	89	71
【生徒】学校は生徒の学力向上に向けて積極的に取り組んでいますか。		95	89	78	79
【生徒】校内計算テスト・漢字テストには熱心に取り組めましたか。		89	58	56	58
【生徒】「読書の時間」に満足していますか。		89	84	83	71
【生徒】定時制読書室の本棚にある本には満足していますか。		68	79	79	67

5 今後の課題

学力の基礎・基本の定着は、社会生活に必要不可欠であり、今後も個々の能力や目標に応じた学習課題の設定等、きめ細やかな指導が重要である。社会で求められる学力の育成を目指して、協働的・体験的な学習、探求的な学習、言語活動の充実等を意識した授業改善が必要である。